

第2回課題解決部会(4/28) 主な意見

R3.5.13

テーマ	内 容
災害時の人権問題	災害時の人権問題は今まであまり顧みられてこなかった。あらゆる人を取りこぼさないインクルーシブ防災の取組をすすめる必要があるのではないか。
避難のあり方	避難所へ行くだけでなく、在宅避難やホテルに行くなどの多様な避難のあり方を検討するという項目があっても良いのではないか。
BCP（事業継続計画）	市域だけにとられない多様な防災体制、受援体制、支援体制を含めると良い。沿岸部と内陸部、あるいは加古川流域という形で、東播磨を含めていくつかフレームとして考えられる。
広域防災	東播磨地域は70万人強の人口を抱える地域。鳥取県や島根県より少し多い規模でもあるので、広域の防災を考えた方が良いかもしれない。
健康	健康は市民の関心が高い分野。QOLを伸ばしていくためには何かしていないといけないのだろうが、「外に出ましよう」や「介護予防」などの言い方になって、直接健康寿命の延伸につながるような施策は立てづらい。
コロナ禍で浮き彫りになった脆弱性	東播磨だけの問題ではないが、コロナで色々な脆弱性が話題になった。デマに惑わされないで正しく恐れることは出来ていたのか、感染症で差別がでたなど、そういう風にならないようなものを取組の方向性に入れた方が良いのではないか。
生涯スポーツ	健康維持のために高齢者がスポーツをはじめるともこれから増えると予想される。生涯スポーツがメインになっていると思うので、もう少し入れておいた方が良いのではないか。
MaaS (Mobility as a Service)	MaaSをこれから推進するのであれば、入れた方が良く思う。
SDGs	期間は違うが、3市2町の総合計画では殆どSDGsの考え方を取り入れている。SDGsはビジョンの途中で終わるだろうが、入れるべきかどうか。
歩道の整備	県道でも歩道がない県道はまだたくさんある。そういったところを整備した方が良いのではないか。 車を通れないようにして自転車と歩道だけの道にしても可能だと思う。思い切ってやってみても良いのではないか。

避難所における感染症対策	避難所で、感染症が流行らないためにはどうすべきかという議論は既に始まっているので、そこも入れた方が良いのではないかな。
多様な家族のあり方	単身世帯や、子どもがいない世帯とか多様な家族のあり方を受け止める話が上がるべきではないか。 むしろ、子どもがいる世帯の方が少ない地域も実際にある。 多様な家族のあり方を容認すると同時に単身世帯や、今まで地域とつながるチャンネルがなかったところへのアプローチを考えるべき。
生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の大学や高齢者大学を活かして、生涯学習のところはもう少しプログラムを考えていってもいい。 ・今まで行政が考えていたのは、生涯学習を通じて地域作りを担っていただくということだが、個人性を重視した高齢者が近年増えていてそれは難しい。その事実も踏まえて「広がる働き方、生き方、学び方」になっても良いのではないかなと思う。 ・地域の課題解決も生涯学習になり得る。
子育てしやすい環境	子育てしやすい環境のために活動するにしても組織がないといけないとなるが、今は若い親は子どもの時に子ども会に入っていないのが普通になってきている。どういう形で、下の世代に子ども会に加入してもらえようような仕組みをどう作っていくかはこれからの課題。
人材を育てる	ビジョンの書き方として、「地元に残る」というのは大事だが、一方で、地域で育て世界で活躍する人材を育てるには、必ずしも地元にいるというのが良い教育なのかということとそれも違う。 「世界で活躍出来るような逸材を育てる地域」という価値もある。
観光	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で各市町は様々なPRをしている。発信力を更に高めるために県民局エリアの単位で情報の載せ合いをするのか。 ・県としての観光のHPを作ってみようとは思っている。 ・他地域との交流を考えていこうという風になっていく。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域創生でも人・モノ・仕事という話があって、産業やデジタル技術が地域に不可欠ではありつつも、それを行政側が促していく取組というのは非常に難しい。 ・地域としてもものづくり産業をどういう方向に持っていったらいいのかな。

<p>移住・定住</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・淡路、但馬などに比べると移住、定住は弱い。そういった中でどういった促進をするのか。 ・阪神間に通いやすいという部分をPRして人に来てもらいたい。 ・空き家を活用といった事業が出来るのであれば、色々な発想を組み合わせ地域に人を呼び込んでいけるようにしたい。 ・40戸ぐらいの新しい住宅地、幼稚園等があれば若い世代はやってくる。若い人が興味を持つような注文住宅が出来るような仕組みもあればいいが、なかなか実際には難しい。
<p>土地利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東播磨地域全域が都市計画区域になっていて、住居を店舗や事業所にするにも用途変更が伴って、融通が利きづらい。 ・想定される人口減少に応じた土地利用の再整理、柔軟性を書くこと。
<p>住宅利用</p>	<p>終の棲家ではなく、若い人たちがアトリエ感覚で住める場所、シェアスペースなどを用意してはどうか。チャレンジキッチンみたいな感じで使えるような住宅利用のやり方もあっていいと思う。</p>
<p>農業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足、担い手不足の原因には、農業が儲からないから。 ・農地面積が少ないため、そういったところを集約しないと赤字が続いていく。 ・スマート農業は省力化には繋がるが、機械の導入にはかなりの投資が必要になってくる。
<p>水辺</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海辺だと貧栄養化の問題が進む。山、海、川の大循環というイメージを持つ必要がある。 ・ため池は、昔は水資源を活用するために農業者が管理していたが、現在はため池での水資源の活用が必要なくなり、管理だけを農業者が行うようになった。 <p>管理する農業者は減ってきてつつあり、農業者がいなくなればいずれたため池の管理は出来なくなってくる。</p>